

家庭学習は 「自分で考える力」を高める

—家庭学習に関する基礎調査の分析結果から

前原由喜夫
(長崎大学教育学部)

参加者属性

	小学校			中学校		
	5年生	6年生	合計	1年生	2年生	合計
男子	36	39	75	27	45	72
女子	38	41	79	21	41	62
不明	0	1	1	2	0	2
合計	74	80	155	50	86	136

アンケート項目：家庭学習の状況

・家庭学習の時間

- 1) 30分より少ない
- 2) 30分以上～1時間より少ない
- 3) 1時間以上～1時間30分より少ない
- 4) 1時間30分以上～2時間より少ない
- 5) 2時間以上～2時間30分より少ない
- 6) 2時間30分以上～3時間より少ない
- 7) 3時間以上

・家庭学習の計画と実行：豊田・川崎(2000)の学習習慣尺度を参考に9項目を作成し、4件法で回答を求めた。

1. 宿題がなくても勉強していますか。
2. 家では決めた時間に勉強していますか。
3. 家での勉強の計画を作っていますか。
4. 勉強する時間と遊ぶ時間を分けていますか。
5. 家での勉強の仕方を、自分なりに考えて工夫していますか。
6. 家で勉強を始めても、すぐにいやになってしまいますか。*
7. 遊びに熱中しすぎて、勉強をしないことがありますか。*
8. 家で机に向かったとき、すぐに勉強を始めますか。
9. 計画した勉強は、最後までやりますか。

4) はい
3) どちらかという、はい
2) どちらかという、いいえ
1) いいえ

・授業の予習：「授業の予習をしていますか」という質問に、4件法で回答を求めた。

アンケート項目：デジタルツールの負の影響

- 学習外デジタルツール使用時間**
 - 1) 30分より少ない
 - 2) 30分以上～1時間より少ない
 - 3) 1時間以上～1時間30分より少ない
 - 4) 1時間30分以上～2時間より少ない
 - 5) 2時間以上～2時間30分より少ない
 - 6) 2時間30分以上～3時間より少ない
 - 7) 3時間以上
- インターネット依存度**：学習時のインターネット依存度を測定するために、以下の5項目を4件法で尋ねた。
 1. インターネットがあれば、本で調べる必要はないと思う。
 2. たいていの問題は、インターネットで調べれば答えがわかると思う。
 3. 自分で考えるよりも、インターネットで調べたほうが早く解決できると思う。
 4. 自分で考えるよりも、インターネットで調べたほうが正確だと思う。
 5. インターネットがあれば、人に聞く必要はないと思う。
- パソコン筆記志向**：以下の5つの学習作業について、手書きかパソコンのどちらでするのが好きか4件法で尋ねた。

<ol style="list-style-type: none"> 1. アイデアをメモする。 2. 作文（400字くらい）を書く。 3. 長い作文（800字くらい）を書く。 4. 人の話の大事な所をメモする。 5. 本を読んで、大事な所をメモする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 紙に手書きでするのが好き 2) どちらかという、紙に手書きでするのが好き 3) どちらかという、パソコンなどでするのが好き 4) パソコンなどでするのが好き
---	--

アンケート項目：学びへの主体性

- 自律的学習動機**：西村・河村・櫻井(2011)の自律的学習動機尺度から、各下位尺度3項目ずつ計12項目を選び、1:まったくあてはまらない～4:とてもあてはまるの4件法で回答を求めた。

1. 問題を解くことがおもしろいから
2. 自分の夢を実現したいから
3. 勉強で友だちに負けたくないから
4. やらないとまわりの人がうるさいから
5. 勉強をすること自体がおもしろいから
6. 自分の希望する高校や大学に進みたいから
7. 友だちより良い成績をとりたいから
8. まわりの人から、やりなさいと言われるから
9. 新しい解き方や、やり方を見つけることがおもしろいから
10. 自分のためになるから
11. 友だちにバカにされたくないから
12. 成績が下がると、怒られるから



アンケート項目：自分で考える力

- 批判的思考態度**：楠見・村瀬・武田(2016)の児童生徒用一般的批判的思考態度尺度10項目を、1:あてはまらない～5:あてはまるの5件法で尋ねた。

1. 新しいことをつぎつぎ学びたいと思う。
2. いろいろな考え方の人と接して、多くのことを学びたい。
3. 他の人も納得できるように、理由をつけて説明をしようとする。
4. 2つの考えのうちどちらかに決めるときには、できるだけ多くの証拠を調べる。
5. 話し合いをするときは、自分の意見と他の人の意見をくらべる。
6. はっきりとした理由を考えて自分の行動を決める。
7. 一つや二つの立場だけではなく、できるだけ多くの立場から考えようとする。
8. 人の意見を聞いたり本を読んだりするときは、実際にあったことなのか、その人の意見なのかを区別する。
9. 思い込みで判断しないようにいつも気をつけている。
10. 他の人の考えを自分の言葉でまとめてみる。



- | | |
|-----------|-------|
| 3, 5, 10: | 論理的思考 |
| 7, 8, 9: | 客観性 |
| 1, 2: | 探求心 |
| 4, 6: | 証拠の重視 |

集計方法

- 家庭学習の状況
 - 家庭学習の時間：1～7（短い～長い）の数字を割り当て
 - 家庭学習の計画と実行：逆転項目は補正して9項目の平均値（ $\alpha=.801$ ）
 - 授業の予習：そのまま
- デジタルツールの負の影響
 - 学習外デジタルツール（DT）使用時間：1～7（短い～長い）の数字を割り当て
 - インターネット依存度：5項目の平均値（ $\alpha=.759$ ）
 - パソコン筆記志向：5項目の平均値（ $\alpha=.774$ ）
- 学びへの主体性：自律的学習動機尺度の下位尺度ごとに平均値を求め、
内的調整×2+同一化的調整×1+取入れ的調整×(-1)+外的調整×(-2)
 を自律的学習動機指標として使用（岡田(2005)を参考に）
- 自分で考える力：批判的思考態度尺度の10項目の平均値

基本統計量

- 小学生男子，小学生女子，中学生男子，中学生女子の別に，平均値（ M ）と標準偏差（ SD ）を求めた。

データ名 [最小値,最大値]	小学生				中学生			
	男子		女子		男子		女子	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
家庭学習時間 [1,7]	2.83	1.44	2.90	1.33	2.60	1.28	3.07	1.16
家庭学習の計画と実行 [1,4]	2.72	0.70	2.81	0.57	2.53	0.65	2.72	0.60
授業の予習 [1,4]	2.79	1.14	3.23	0.94	2.10	1.10	2.23	0.94
学習外DT使用時間 [1,7]	3.88	2.07	4.04	1.91	4.26	1.84	3.84	1.94
インターネット依存度 [1,4]	2.78	0.67	2.85	0.52	2.95	0.63	2.83	0.57
パソコン筆記志向 [1,4]	2.53	0.83	2.18	0.70	2.16	0.84	2.11	0.68
自律的学習動機指標 [-9,9]	1.33	2.65	1.30	3.13	0.49	1.99	0.20	2.57
批判的思考態度 [1,5]	3.57	0.92	3.59	0.76	3.59	0.77	3.79	0.63

参加者属性はデータに影響しているか？

- 校種2 [小学校/中学校] × 性別2 [男子/女子] の参加者間2要因分散分析（ANOVA）※交互作用はすべて非有意
 - 家庭学習時間：有意差なし
 - 家庭学習の計画と実行：有意差なし
 - **授業の予習**：小学校 > 中学校 ($F(1, 284) = 47.16, p < .001, \eta^2 = .139$)，男子 < 女子 ($F(1, 248) = 5.35, p = .021, \eta^2 = .016$)
 - 学習外DT使用時間：有意差なし
 - インターネット依存度：有意差なし
 - **パソコン筆記志向**：小学校 > 中学校 ($F(1, 284) = 5.74, p = .017, \eta^2 = .019$)，男子 > 女子 ($F(1, 284) = 4.54, p = .034, \eta^2 = .015$)
 - **自律的学習動機指標**：小学校 > 中学校 ($F(1, 248) = 9.57, p = .002, \eta^2 = .033$)
 - 批判的思考態度：有意差なし

参加者属性はデータに影響しているか？

- 性別の影響はあっても小さいようだが、小学校と中学校とでは大きく異なる指標のあることが示唆された。校種によってデータの特徴が大きく異なる可能性があるので、以下の個人差分析では校種別に分析を行う。
- また、以下の分析では性別未回答の児童生徒も含めて分析を行う。したがって、小学校 $N = 155$ 、中学校 $N = 136$

相関分析 [小学校]

	a	b	c	d	e	f	g
a. 家庭学習時間	-						
b. 家庭学習の計画と実行	.438**	-					
c. 授業の予習	.104	.240**	-				
d. 学習外DT使用時間	-.131	-.335**	.040	-			
e. インターネット依存度	-.304**	-.373**	-.021	.211**	-		
f. パソコン筆記志向	-.143	-.220**	.156	.122	.121	-	
g. 自律的学習動機指標	.269**	.555**	.207**	-.295**	-.411**	-.121	-
h. 批判的思考態度	.331**	.643**	.365**	-.156	-.319**	-.068	.535**

$r(153)$, ** $p < .01$

相関分析 [中学校]

	a	b	c	d	e	f	g
a. 家庭学習時間							
b. 家庭学習の計画と実行	.430**						
c. 授業の予習	.311**	.270**					
d. 学習外DT使用時間	-.216*	-.375**	-.026				
e. インターネット依存度	-.156	-.295**	-.192*	.196*			
f. パソコン筆記志向	.128	.018	.070	.077	-.023		
g. 自律的学習動機指標	.043	.402**	.072	-.286**	-.351**	-.010	
h. 批判的思考態度	.209*	.534**	.208*	-.167	-.208*	-.074	.275**

$r(134)$, * $p < .05$, ** $p < .01$

家庭学習の量と質と予習

- 相関分析の結果、小学校と中学校とで、家庭学習の量と質と予習の関係に共通点と相違点のあることが示された。

[共通点]

- 家庭学習の計画と実行ができる子ほど、家庭学習時間が長い。
- 家庭学習の計画と実行ができる子ほど、授業の予習をしている。

[相違点]

- 小学校では家庭学習時間と予習に関連はないが、中学校では家庭学習時間が長い子ほど予習をしている。
- 中学校では家庭学習に授業の予習が自然に組み込まれているのかも。

家庭学習とデジタルツール

- 相関分析の結果、小学校と中学校とで、家庭学習とデジタルツールとの関係性に違いのあることが見えてきた。

[小学校]

- **インターネット依存度**が高いほど、家庭学習時間が短い→インターネット検索で早く済ませて、自分で考えなくなっている？
- **学習外DT使用時間**、**インターネット依存度**、**パソコン筆記志向**のすべてが、家庭学習の計画と実行に負の関連→デジタルツールの無批判的多用が家庭学習に負の影響

[中学校]

- **学習外DT使用時間**が長いほど、家庭学習時間が短い→動画視聴やゲームやSNSが、家庭学習を圧迫している？
- **学習外DT使用時間**、**インターネット依存度**が、家庭学習の計画と実行に負の関連→手書きとパソコンは、課題状況に応じてうまく使い分けられるようになっている？

家庭学習・学びへの主体性・自分で考える力

- 相関分析から、**家庭学習**の諸指標と**自律的学習動機づけ**指標と**批判的思考**態度との間に有意な正の相関が見られた。



- 家庭学習の方法や内容を自ら考え実践することは、批判的思考態度をトレーニングすることに貢献しているのでは？家庭学習の時間や予習の有無も影響するのだろうか？